

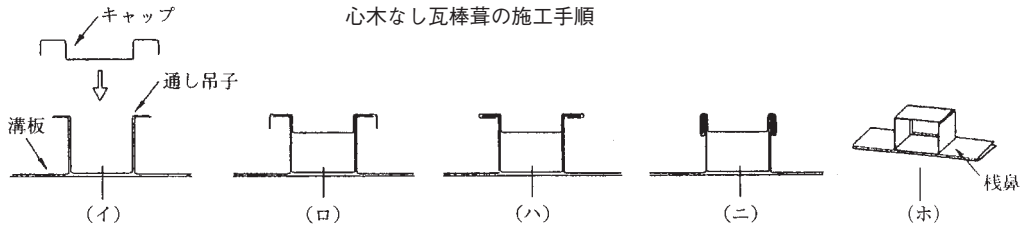
H28-問題 37

心木なし瓦棒葺に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

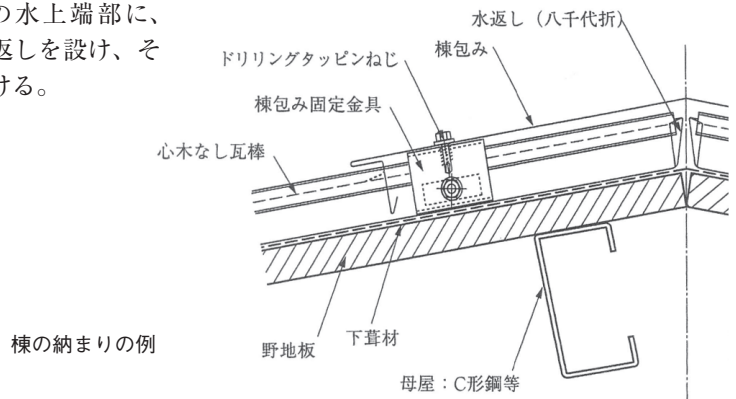
- (1) 一般部の葺き方は、通し吊子をすべて留め付けた後、溝板を並べ、キャップ掛けを行った。
- (2) 棟部の納めは、溝板の水上端部に八千代折とした水返しを設け、棟包みを取り付けた。
- (3) けらば部の溝板の幅は、瓦棒の働き幅の1/2以下とした。
- (4) 軒先の瓦棒の先端に設ける棧鼻は、キャップと溝板の立上がり部分でつかみ込んで取り付けた。

ポイント解説 仕上げ工事 溝板と通し吊子を交互に敷き並べた後、通し吊子を留め付ける。 **正解 (1)**

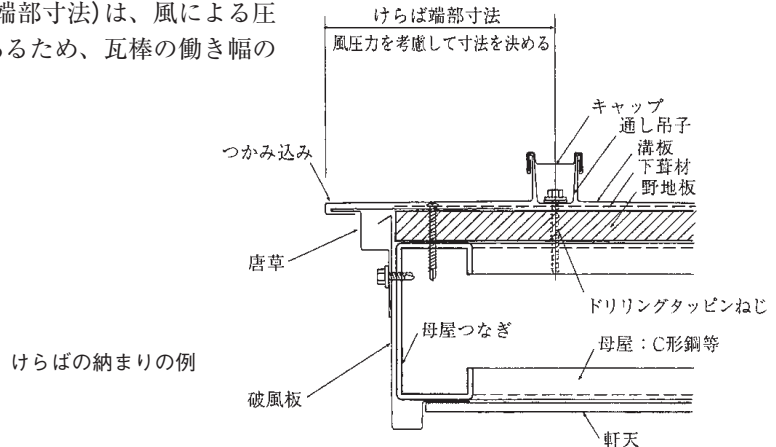
- (1) **誤** 心木なし瓦棒葺の一般部の施工手順は、「①溝板と通し吊子を交互に敷き並べる」→「②通し吊子をすべて留め付ける」→「③キャップ掛けを行う」→「④瓦棒葺の先端部を棧鼻で包み込む」である。よって、(1)は不適当。



- (2) **正** 棟部の納めでは、溝板の水上端部に、八千代折で折り返した水返しを設け、その上から棟包みを取り付ける。



- (3) **正** けらば部の溝板の幅(端部寸法)は、風による圧力を考慮する必要があるため、瓦棒の働き幅の1/2以下とする。



- (4) **正** 軒先の瓦棒の先端に設ける棧鼻は、キャップと溝板の立上がり部分でつかみ込んで取り付ける。